特集

県計画への質問状

■農林水産業の巻■

「広報くまもとの先月号にのつとつた〝県計画〟ば読むと、農業は米にばかり頼ッとつちやあいかんと書いてあるバイ。」

「何とかよかクメンばせにやあならん。豚でん飼おうかな。」

「漁業でん同じたい。一本釣りぢやあ食うていかれん。」

「ぢやあ、どうしたらよかろうか?」

あぜ道で、山道で、あるいは浜辺で語りあわれる疑問の数かず……

これらの疑問にヒントを与える意味で、「県計画」発表いらい県下各地から寄せられた質問と、これに対する回答をここに紹介しよう。

経営を切りかえたいが……

問 この前発表された県計画では「熊本県の農業の近代化をはかるために、畜産と果樹を重点として、自立経営の育成と協業化を助長する云々」と書いてありましたが、サテ、わが家の農業経営の場合はどうしたらよいのか?ということになると、どうもピンときません。一般的な場合を例にとつて、簡単に説明して下さい。

（芦北郡芦北町　農事研究会員）

答 個々の農家の場合と部落の場合とに分けてお答えした方がわかり易いと思いますので、まず個々の農家の場合から……

これからの農業経営を考える場合大切なことは、農産物の消費はどう変つていくのか、いいかえると、これからは農産物のなかでどんなものが有利に売れるかということをよくみきわめて、経営の仕組みを考えていくことでしよう。

ご承知のとおり、最近食糧の消費の内容が大分変つてきました。米を中心とする澱粉質の食糧消費は、停滞か又は減り気味で、反対に牛乳や肉、卵などの畜産物や果物の消費がたいへんふえてきています。一方、主食の中心である米は、国内の生産が増えて、大体生産と消費の均衡がとれるようになつてきました。

そこで、平坦地の水田地帯と畑地帯について、ごく一般的なことについて述べてみます。

「水田地帯」……これまでの経営は、経済性の高い米を中心に、不経済な麦を組み合わせた、単純な主穀偏重の経営が大部分を占めていましたが、今後は米のほかに少なくともいま一つの部門を導入していきます。

この部門としては、酪農が最も望ましいのですが、このほか、立地条件に応じて、養鶏、そさい、い草、花卉等が考えられます。米は、やはり重要な作物ですから、今後もできるだけ反収を引きあげることが必要ですが、さらに水系別の計画栽培等も考える一方、早・晩期栽培、田畑輪換等で水田を高度に利用していくことが必要になつてきましよう。

水田経営において、水稲との組合せの一例を示しますと、①乳牛（搾乳牛）三頭で粗飼料の完全自給②養鶏の場合は三〇〇羽以上③そさいの場合は年間四〇～五〇アールの各種そさいの組合せ等の単位が考えられます。また、排水の悪い水田地帯では酪農の導入もそさいの栽培も困難ですから、先ず集団的な排水改良を行う必要もあります。

「畑作地帯」……これまでの経営は、土地条件や気象条件の影響で、単位当りの生産力も低く不安定であるため、実に多くの作物が雑多に作られていました。そのうえに、夏季の除草をはじめとする過重労働を強いられ、しかも全体としての収入は、逆に少なかつたものです。

ですから、これからの経営改善についても色々な困難は予想されますが、経営の中心をこれまでの普通作物から畜産、あるいは地域によつてはそさい、果樹等に切り替えていくことが必要でしよう。この場合の畜産は、酪農や養豚が主となりますが、その導入する単位としては、酪農では前述の水田地帯の場合と同じ。豚は、繁殖豚二頭、肥育豚年間一〇頭程度の導入単位が手ごろでしよう。

いずれにしても、このように経営の仕組みを変えていくには、資金、労力、技術等を十分考えて、必要によつては土地条件の整備、協業化等も考えて、経営改善を進めることがたいせつです。

つぎに、部落合体としてはどうしたらよいかということを、農業経済課に答えてもらいましよう。

（農業改良課）

まず「協業組織」を……

貿易の自由化に対処して、どうしても労働生産性を向上して、生産費を切り下げていかなければなりませんが、そのためにはまず、部落全体としては、稲作なら愛知県でやつているような集団栽培をやるとか、あるいは兵庫県のように、トラクターの共同利用で能率をたかめるなど、いわゆる「協業組織」をつくることが望ましいわけです。

「協業組織」としてはつぎのような五つの型があります。

① 土地や水利条件の共同整備
② 生産技術の共同化
③ 農用機械や防除施設の共同利用
④ 共同作業
⑤ これらをいくつか組み合わせた型

このうち、どの型をとるかは、あなたの地域の実情に応じてきめなければなりません。

つぎに、畜産でも、果樹でも、そさいでも共通にいえることは、流通市場が大規模化してくると、産地どうしの競争が激しくなるので、これにうちかつていくためには、生産者は個人個人でなく、皆が集団的にしかも組織的に大きくまとまつて、いわゆる「集団産地」をつくりあげることがたいせつです。こうしなければ将来性はのぞめない時代です。

各農家がバラバラに、無計画にやつても不利です。

なお、具体的な協業経営のやり方や、集団産地の規模等については、地域の特殊性によく合わせる必要がありますのでくわしくおしらせ下されば、さらによくご相談にお答えいたします

（農業経済課）